

みしま野

みなせじんぐう 水無瀬神宮

阪急水無瀬駅を下りて駅前の通りを右に入り北東へ800m程歩けば、わりと小振りな鳥居が見える。傍らには「水無瀬神宮」と大きく彫り込まれた石碑が佇む。水無瀬神宮の入り口である。鳥居の中では夏休みの子供達が賑やかに戯れている。小さな薬医門を潜り抜け、ふと境内の一角に目を遣ると、ペットボトルやポリタンクを抱えた大人たちの姿が見える。境内に湧く水は昭和60年当時の環境庁が認定した大阪府で唯一の「全国名水百選」である「離宮の水」と呼ばれる井戸水で、参詣に来た人々がその恩恵を受けている。

水無瀬神宮の地は後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮のあった場所で、後鳥羽上皇崩御の後、元離宮の地に御堂を建立し、その菩提を弔ったのが水無瀬御影堂である。江戸末期まで式で御祀りしていたが、明治政府の神仏分離令により廃仏毀釈の嵐が起り、その



拝殿：後ろに本殿と左側に客殿を臨む



石碑に比して小振りな鳥居



名水百選に選ばれた離宮の水

所在地：三島郡島本町広瀬 3-10-24
最寄駅：阪急水無瀬駅下車 徒歩約 10 分
外部からは何時でも見学可能です。
なお燈心亭は予約が必要ですのでご注意ください。
TEL：075-961-0078（問合せは水無瀬神宮へ）

影響を受け明治6年に神社として制定、官幣中社に列せられ「水無瀬宮」と改称した。昭和14年には官幣大社に昇格し、「水無瀬神宮」となった。

境内には拝殿を始めとし、本殿・客殿・茶室等がある。本殿は拝殿の後ろに控えておりその全貌を拝む事はできないが、京都御所の旧内待所の旧材を用いて寛永年間に移築したものとされている。拝殿は昭和4年に創建された比較的新しい社殿であるが、拝殿の意匠が発する趣は他の社殿の意匠に決して引けを取らない風格を漂わせている。桃山時代に創建された入母屋造・棧瓦葺の客殿や後水尾天皇より下賜されたとされる躡口がない初期数奇屋風書院の茶室「燈心亭」は国の重要文化財に指定されており、普段ならば見落としがちな小さな柱に、日本文化の伝統を継承している建造物が静かに佇んでいる。（神保 勲）